

I 概要

【内政】

- 2日 内閣改造
- 4日 サントス大統領の支持率が21%に下落
- 7日 道路封鎖の完全解除
- 25日 ティモチェンコ FARC 最高司令官がサントス大統領宛に抗議の書簡を發出

【外交】

- 9日 ニカラグアとの海域画定問題につき ICJ 判決には従わない旨のサントス大統領演説
- 19日 オルギン外相の第37回アンデス共同体外務及び通商大臣会合出席(於：ペルー)
- サントス大統領の国連事務総長との会談(於：ニューヨーク)
- 24日 サントス大統領の国連総会一般討論演説
- 23～26日 サントス大統領の国連総会時の各国首脳との会談
- 23～27日 オルギン外相の国連総会時の各国外相等との会談

II 本文

【内政】

1 内閣改造

2日、全閣僚よりサントス大統領に対し、内閣改造のために辞任する用意があるとする書簡(儀礼的辞表)が提出され、5日夜、サントス大統領は、「和平のための団結内閣」(un gabinete de unidad para la paz)を結成するために内閣改造を実施した。交代した閣僚は法務大臣、内務大臣、農業・地方開発大臣、鉱山・エネルギー大臣、環境・持続可能な開発大臣であった。

先般の大規模ストライキが内閣危機の原因であったといわれており、農業・地方開発大臣及び内務大臣は、現状を打開する能力に欠けていたとされる。

2 サントス大統領の支持率

4日に発表されたギャロップ社の隔月世論調査では、サントス大統領に対する支持率が21%(6月時点では48%)、不支持率が72%(6月時点では44%)に達した。

3 道路封鎖の完全解除

7日、農民団体と政府との交渉が合意に達し、残っていた道路封鎖が完全に解除された。農民の要求に応えるために必要な財源について、政府は0.4%の金融取引税を2014年以降も延長したいと考えている。

4 ティモチェンコ FARC 最高司令官発サントス大統領宛書簡

25日、ティモチェンコ FARC 最高司令官は、サントス大統領宛書簡を発出し、サントス大統領による国連総会での一般討論演説は、和平合意後の国民投票や和平の枠組みを政府が FARC に対して一方的に押しつける内容であり、また和平交渉の加速についても要求するものであったとして批判するとともに、ハバナでの交渉担当者達に対して和平交渉における政府との密約を暴露することを許可したと述べた。

これに対して政府は、当初 FARC と合意した交渉の議題を変更することはない旨述べた。

【外交】

1 ニカラグアとの海域画定に関し、ICJ 判決には従わない旨のサントス大統領演説

9日夜、サントス大統領は、対ニカラグア「領土及び海洋紛争」事件に関し、4つの論点に基づき、コロンビアが ICJ 判決には従わない旨の演説を行った。論点は、(1) ニカラグアとの国境画定条約が締結されない限り、ICJ 判決は、本件に適用されず、今後もされない、(2) カリブ海西部における我々の全ての島嶼の接続水域を統合した統合接続水域 (Zona Contigua Integral) が存在することを宣言する、(3) シーフラワー海洋保護区の保護を再確認するために、あらゆる法的及び外交的措置をとる、(4) サン・アンドレス島がある大陸棚とカルタヘナ沿岸から伸びる大陸棚が法的に結合していることを宣言する、という4点であった。

2 オルギン外相の第37回アンデス共同体 (CAN) 外務及び通商大臣会合出席

19日、ペルーにおいて第37回アンデス共同体外務及び通商大臣会合が開催され、オルギン外相及びディアス・グラナドス商工観光大臣が出席した。同会議においては、アンデス地域の統合プロセスの活性化につき議論された。

3 サントス大統領の国連事務総長との会談

23日、サントス大統領は潘国連事務総長と会談し、チンチージャ・コスタリカ大統領、マルティネリ・パナマ大統領と連名で、ニカラグアの拡張主義に懸念を表明する書簡を手交した。

4 サントス大統領の国連総会一般討論演説

24日、サントス大統領は、国連総会において、コロンビア革命軍 (FARC) との和平交渉妥結の重要性につき訴える内容の一般討論演説を行った。同演説において、サントス大統領は、国際刑事裁判所 (ICC) がコロンビア政府が和平のために FARC 構成員の一定の犯罪に対する恩赦を行っても介入しないよう求めるとともに、人道に対する罪及び組織的な戦争

犯罪について刑罰免除はしない旨述べた。また、一年間のFARCとの交渉において、6項目のうち1つにつき合意できたに過ぎず、交渉の加速化が必要であるとの認識を示した。

5 サントス大統領の国連総会時の各国首脳との会談

サントス大統領は国連総会の際に、23日に、カルテス・パラグアイ大統領、ムヒカ・ウルグアイ大統領と、24日に、チンチージャ・コスタリカ大統領、フィッシャー・オーストリア大統領、キー・ニュージーランド首相と、26日に、ストルテンベルグ・ノルウェー首相と会談した。

6 オルギン外相の国連総会時の各国外相等との会談

オルギン外相は国連総会の際、23日に、パンジキゼ・グルジア外相、ボルド・モンゴル外相、アグエロ・ホンジュラス外相、マルティネリ・パナマ大統領と、24日に、ウマラ・ペルー大統領と、25日に、メメディヤロフ・アゼルバイジャン外相と、26日に、インスルサOAS事務総長、ユン韓国外相、コホウト・チェコ外相、ティーマンス・オランダ外相、アブダッラー・アラブ首長国連邦外相、デル・ロサリオ・フィリピン外相と、27日に、ナルバンジャン・アルメニア外相、イドリゾフ・カザフスタン外相、ミランダ・エルサルバドル外相、メレドフ・トルクメニスタン外相、ラモット・ハイチ首相、スラポン・タイ第一副首相兼外相と会談した。

また、オルギン外相は、23日に太平洋同盟外相会合（ケリー米国国務長官も出席）において議長を務めたほか、26日、イベロアメリカ外相会合に参加した。

7 オルギン外相の欧州大使会議出席

30日～10月1日にかけて、欧州地域に駐在するコロンビア大使との会議に出席するためスペインを訪問した。

(了)